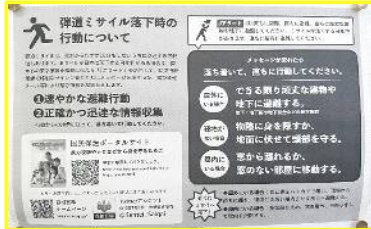


北より怖い「安倍解散ミサイル」を後押しするJR東海



■各職場での点呼や掲示等で、「(再変更) ミサイル発射

情報を得た場合の対応」ということで、北朝鮮への恐怖心

を更に植え付けている。

独裁政権の思惑を、忠実に忖度する大企業としての側面を覗かせている。21世紀における公共性の高い企業として、もっと冷静に、そして誠実に独自のアイデンティティーを発揮すべきだ。まるで戦時下の「国家総動員体制」といえる。

■確かに、北朝鮮は「暴君」かもしれない。しかし一度足りとも「戦線布告」を発していない限り、その行為はそれ以上でも、それ以下でもない。すなわち戦争行為には、一切発展しないということが国際上のセオリーである。さらに言えば「チキンレース」など愚の極みであること。北朝鮮は貧しいがゆえ、シリアのように米国に先制攻撃させないための自衛手段であること。国力からは、先制攻撃されない限り武力行使には至れないこと。外交上の決裂がいわゆる戦争となるのであり、歴代政権が踏襲してきたよう堅実な外交力とは、「黙認しながらにして対話する」これに尽きるのである。

■実際には世論も、そして安倍政権にいたっても、北朝鮮を恐れることなく、実に平和的に暮らしている。安部の論理（魂胆）、すなわち北の脅威が事実なら、間違いなく日本海原発（むき出しの使用済み核燃料）に標準をあわせる。それで日本は確実に滅びる。

この重大危機を放置しておきながら、「頑丈な建物に非難せよ」とはとんだペテンだし虫唾が走る。■そして何より、この局面での衆議院解散とは、北のミサイルをほくそ笑み利用し、「エセ無償教育」を引き替えに、憲法破壊を目論むがゆえつくられた北朝鮮イメージでしかない。こんな火事場泥棒政権に私たちは騙される訳にはいかない。

独裁者安倍のための私物化解散を許さず、真実をこの目で見極めよう！